

# 令和4年度 学校関係者評価委員会・教育編成委員会

## 会議録

出席者 8名（委員5名、職員3名）  
期 日 令和4年7月1日（金曜日）  
時 間 午後5時から6時30分  
場 所 加治木看護専門学校 本校3階 多目的ホール  
web参加1名（委員）

※会議資料 別添

### 1 開会のことば

### 2 委嘱状 交付（送付済み）

### 3 学校長あいさつ

#### 資料確認

### 4 職員 自己紹介

### 5 学校関係者委員 挨拶

### 6 協 議 議長：校長（今回のみ：全員が新委員のため）

議案1 昨年度の学校関係者委員会 会議録から学校長による資料説明

#### 1) 「令和3年度の自己評価報告及び学校関係者評価について」

項目IV 「教育環境」において改善された点は

ICT教育に向けての整備・・・WiFi環境 全館設置完了

#### 2) その他：入学者数減少の要因分析

オープンキャンパス・オンライン説明会等における効果分析

退学・留年率の分析

「新入生アンケート結果」分析

令和4年度 募集要項変更の説明 等

議案2 教育課程 概要説明について（教務主任より）

カリキュラムデザイン、学生便覧等 参照

### 3) 質疑応答・意見交換

A委員： 学生をきちんとした形で受け入れ、育て、送り出している仕組みに大

変感銘を受けている。資料で注目すべきは「入学者に求められている学力」であり、入試を「国語」と「数学」に設定している点である。ルーブリックやカリキュラムデザインにも記載があるように、現在の大学入試でも高校生に求められている学力として「思考力」「探究力」が重視されている。このような力を持った入学希望者を受け入れる入試システムに加えて、日々の授業や実習の中で育てていく仕組み作りがとても大事だと思う。

また、非常勤講師の立場で不安に思うことは、我々非常勤講師も学校全体の方針を理解し、それに沿って授業をデザインすべきではないかという点である。説明会や研修等で他の非常勤講師にも伝える必要があると思う。

B委員： 昨年度まで保健医療論を担当する中で感じたのは、患者という個に意識が向きがちな点である。患者は地域社会の中に住んでおり、それぞれの営みがある。個で考えるのではなく、地域社会全体から見た俯瞰的な見方が大事であると思う。

3年次の保健センターでの実習の際に、健診のタイミングがなく、短い期間であったため、地域社会の中のひとりが疾病を持っているという捉え方には至っていなかったように感じる。今後は地域で働く看護師として知識を広げられるよう期待している。

社会福祉協議会等で行っている活動に学生も同行し、血圧測定や健康相談などの機会を設けることができれば学校の知名度も上がると考える。実習で訪問看護師と一緒に地域に出向き、地域を知ることに加え、広報活動も手伝いできればと考える。

病棟にいる患者ももちろんだが、地域で暮らす方々と接することも大事である。連携を取り、お役に立てればと考えている。

また、先程の非常勤講師としての理解がどれほどあったのかも気になっていた点である。

回答： 新カリキュラムについては今回の改定により、新しい講師の方々にもディプロマポリシーのどこを目標にしていくのかを書面で伝えした次第である。今後は大学等で扱っている様式を参考にシラバスの内容や項目の追加も必要であると考え、課題点として捉えている。

もう1点、地域包括ケアシステムに対応できる看護師の養成が国からも求められていることから、新カリキュラムでは地域に出向くことに力を入れている。以前から始良市の社会福祉協議会を通じて「ふれあ

いいいきサロン（高齢者のサロン活動）」へ授業の中で参加させていた  
だいている。ここ3年間はコロナの影響で中止していたが、つい最近  
再開したところであり、学生たちの考えたレクリエーションをさせて  
いただくことになっている。他にも1年生を対象に、生活支援の場へ見  
学に出向く計画もある。ただし、車の乗り入れが許可されていないため、  
今後の検討事項である。

C委員： 学生・教員による自己評価を見たところ、中々厳しい評価をされてい  
ると感じた。私たちも実習に来ている学生や教員からの視線を感じて  
いる。昨年度議題に上がった「どういう看護師を育てたいか」に対して、  
今回ループリックにしっかりと記載されており、大変分かりやすい。ま  
た、就職した際に「社会人として」「人として」をという意識を持ち合  
わせていることはとても大事なことである。「どこまで到達すべきなの  
か」をお互いに理解し、教員も研修を受けているところに共感した。

D委員： 学生募集がとても気になっている。他校の様子も気になるが、個人的  
意見としてオープンキャンパス（以下、OC）は1回あたり30人以上  
は獲得すべきだと思う。病院に勤務していた時の印象から御校は「人  
気がないわけではない」と思う。「国試3年連続100%合格」であり、  
霧島市に就職した方々も頑張っている。「じゃあ、どうして集まらない  
のか」と考えたときに、ハッキリとした理由が分からない。県下のレギ  
ュラーコースを見るに、学生層としては20代が多い。大学等のすべり  
止め校とされているかもしれない。しかし、男性の入学者の増加という  
良いニュースもある。非常勤講師のアピールや学生の口コミ量を増や  
し、自分たちの学校を自慢してもらい、引き込んでもらうことでOC参  
加者や受験者の拡大に繋がると考える。教員も自信を持って、証言して  
いただくことが大切である。国試100%合格は絶対的な強みである。  
「人気がないわけではない」と重ねて思っている。

B委員： 地元の方々には、まだ加治木女子高の印象が強いのではないだろうか。  
龍桜高校から進学する専門学校というイメージ。通学バスにも両校の  
名前が並べて書いてあるので、そう思い込んでいるのかもしれない。

回答： 入学時のアンケートの中で、高校の進路指導担当や担任から「合格率  
が高いということは厳しい学校であるということなので、覚悟を持って  
進みなさい」という言葉もあったようである。高校訪問は現在、校長に

頼っている面があるが、私たち教員や学生も一緒になって取り組む姿勢に変える必要もあると考えている。

B委員： 私たち保健師の採用に関しても、やはり直接出向いて直接話をするガイダンス等への参加は有効であった。実務経験のある看護師の方々が教員として勤めているので、直接話ができる、その機会が大事だと思う。厳しいというイメージがあったとしても自分のためだと思っている生徒は必ず目指してくるはずである。御校の学生は、一生懸命で聞く姿勢・学ぶ姿勢いずれも素晴らしいと感じている。他校の大学生も含めた実習生と何ら引けを取らないと思っており、むしろ高評価の学校だと実感している。直接話ができる機会が増えれば、これまでの OC のような「待ち」の姿勢ではなく、「攻め」の姿勢に変わると考える。

E委員： 講師として、新教育課程の内容は、根拠に基づく医療に関係する内容が非常に印象深く感じられた。今後は更に強調して指導するべきと思った次第である。

今年度の入学生の中には社会人が多く、子育て中の学生もいる。よく質問にも来られて熱心である。高校生への働き掛けも大事であるが、社会人、特にこどもの送迎などの必要がある学生などが受験校として御校を選択する際に、「車での通学を許可する」「駐車場を確保する」などの学びやすい環境づくりが今後必要になってくると考える。現状がどうなのか伺いたい。

校長： 現在、学生は近隣の駐車場を個人契約しているのが実態である。これまでも、その点については学生や保護者から問い合わせ・質問を受けているのが事実である。入学時のアンケートでは、本校を選択した理由の上位に「自宅から通えるから」という回答もあった。駐車場等の確保も重要な案件であると捉えている。

最後にスマートフォンにて本校の HP をご覧いただきたい。

協議終了

## 7 諸連絡・閉会

今後のスケジュールについて

<まとめ>

今年度は、委員の新委嘱を行い、更に教育課程編成委員会を兼ねた合同会議とした。

委員の方々には、自己点検自己評価の結果をもとに、年間の活動目標の成果と、学校運営等についての改善を図るための具体的な取り組みを評価していただいた。これまでのオープンキャンパス参加状況の分析を行い、昨年度との比較をすることで学生募集に関する内容の考察でき、対策例を掘り下げていただくことができた。

令和3年度の学校運営内容については、各評価項目とも大きな教育的課題の指摘は見られなかった。委員の皆様からいただいたご意見は、大変貴重なものであり、次年度へ向けての課題である。改善点や成果等を更に継続して分析し、今後の学校運営に活かしていきたいと考える。

ご協力ありがとうございました。